

新入生を迎えることば

田畑 雅英

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、残念ながらこの場にはご臨席いただけませんが、ご家族、ご関係の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

この入学式の入場制限にもあらわれていきますように、この2年間ほどは新型コロナウイルス感染症によって、大学・短期大学部の授業やキャンパスライフも大きな影響を受けました。今年度もまだ感染症の収束は見通せず、状況によっては、不自由をおかけする局面があるかもしれません。本学としましては、皆さんの安全確保を第一に考え、できる限りの努力を重ねますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、すでにご存じのことと思いますが、今年の4月1日から民法の一部が改正され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることになりました。1896年（明治29年）に民法が制定されて以来、126年ぶりに成年年齢が見直されたわけですが、ここにいらっしゃる新入生の多くの方は、この法改正とともに成年となり、いわば「大人」になったこととなります。

大人になるかならないかで何が違うのでしょうか。いろいろなことが言えるでしょうが、ありきたりの表現で言えば、大人になれば「自分のことを自分で決めて、それに対して自分で責任を持つ」ということになりそうです。あまりにも平凡だと思われるかもしれませんが、実際にはこれはなかなか難しいことで、大人になってもそれができない場合が現にたくさんあります。これを実行するためには相当な努力が必要なのです。

それに加えて、大学または短期大学部に入学した皆さんにはもう一つの変化が起こります。学校教育法などによれば、中学生・高校生が「生徒」と呼ばれるのに対して、大学生・大学院生は「学生」と呼ばれます。すなわち、皆さんはこの4月から「生徒」から「学生」になったこととなります。

「生徒」と「学生」とでは何が違うのでしょうか。ポイントは「学ぶ」という文字にあると思います。受動的に「教わる」のではなく、主体的・能動的に「学ぶ」という姿勢が、学生の基本であるからです。

もちろん、中学・高校の授業が受動的に「教わる」こと一辺倒だったというつもりは

ありません。能動的な学びを促進する授業も多く行われたと思います。また、そもそも「教わる」必要性を軽視することもできません。とくにまだ知識や理解が十分でない段階においては、「教わる」ことは非常に重要です。それがなくては、主体性や独創性を発揮する段階に進むことはできません。

しかし、「学生」となった皆さんは、教わるのを待つ姿勢でなく、自発的・積極的に学んでいくことを心がけてほしいと思います。それは、先ほど申し上げた「自分のことを自分で決めて、それに対して自分で責任を持つ」という「大人」の態度にも通じることです。

大学・短期大学部の授業は、春学期・秋学期ともに15週、それに数日の定期試験期間で、合計31週間ほどです。1年間は52週間ほどですから、21週間ほどの時間は、皆さんがまったく主体的に使える時間です。その長い時間を単なる「休み」ととらえるのではなく、ぜひ有意義な広い意味での学びに活かしてほしいと思います。私たち教職員は、皆さん一人一人の関心と自発性を尊重しながら、皆さんの積極的な学びを支援していきたいと考えております。

けれども、まだそこまで基礎ができていない、あるいは、自分の関心がいまひとつつかみ切れていない、と感じている人もいるかもしれません。それでも慌てることはありません。「険しい丘に登るためには、はじめはゆっくりしたペースで進むことが必要だ」というのはシェイクスピアの言葉ですが、大学・短期大学部時代は、基礎を再確認し、もう一度基礎を固め直して先へ進むためのチャンスでもあります。焦らず、じっくりと、自分のやりたいことは何なのかをつかんでほしいと思います。

ちなみに、私の経験から見ても、焦らず、落ち着いて前向きに取り組むということに関しては、気持ちの持ちようが大切だと思います。私の存じ上げていたある作曲家の先生は、作曲されるにあたって、市販の五線譜を使わず、ボールペンの芯を抜きだして5本輪ゴムで止め、白い紙にすうっと引いて五線を作り、音譜を書き進めておられました。そうして書いた五線の段の終わりまで音符を書くと、また段を書き足し、音符を書いていくわけです。どうしてそのようなことをされるのか伺ってみると、「市販の五線譜を使うと、ページの最後まで五線が引かれているので、少しばかり音符を書いても、書けていない部分が先にたくさんあって、『まだこれだけしか書けていない』と思ってし

まう。このやり方なら、つねに五線譜の端まで音符が書けているので、『もうこんなに書けた』と思って勢いが出る。その心理的な影響は大きいから」ということで、私はたいへん納得しました。

たとえば残り時間があと 30 分という場合でも、「あと 30 分しかない」と考えるのと、「まだ 30 分ある」と考えるのでは、心理的な力が大きく異なってきます。そうした心の持ちようを心がければ、積み重ねで結果は大きく違ってくると思います。

卒業後、人生という、険しいかもしれないけれども、花も緑もあり、実りも豊かな丘に、できるだけ高く登るために、大学・短期大学部在学中の時間を「大人」の「学生」として、有効に使っていただきたいと思います。

栄養科学研究科に入学された皆さんに一言申し上げます。栄養に対する一般の関心は、この数十年の間に大きく変わったと思います。健康が単に「病気でないこと」とイコールなのではなく、人が生きていくうえできわめて重要な積極的価値として一般に広く認識されるとともに、栄養に関する関心も非常に高くなりました。それだけに、非科学的な誤った言説も横行して、ときに人々が惑わされるという例も珍しくありません。もちろん学問は実益に資する面だけでなく、真理追求という自律的な使命を持つことは言うまでもありませんが、社会が、栄養学を専門的に研究しようとする皆さんにかかる期待には非常に大きなものがあります。皆さんがさまざまな困難に耐えて、優れた研究成果をあげられることを願っております。

社会起業研究科に入学された皆さんにも一言申し上げます。ある意味で現代は社会科学の時代であると思います。皆さんは現在最もアクティブな、最も社会から必要とされる領域の一つにおけるエキスパートになろうとしています。その一方で他者への影響も大きく、責任の最も重い分野の一つでもあります。どうか、多様な人々の願いを担って、社会にコミットする見識と知識技術を身につけるよう、研鑽に励んでいただきたいと思います。大いに期待しております。

簡単ではございますが、以上をもちまして、新入生を迎えることばといたします。